

高齢者介護ホーム

ともの家 だより

平成24年7月 第41号

発行 社会福祉法人ともの家

介護現場で遣う言葉は心地よい言葉だけ

〒790-0101 松山市溝辺町甲 94

～ともの家 介護理念より～

【Tel】 089-977-8502 【Fax】 089-907-8504

【E-mail】 tomo-home@triton.ocn.ne.jp 【Home Page】 <http://www.tomonoie.jp>



法人独自の利用料減免について

理事長 永和良之介

介護保険制度には幾つもの欠点がありますが、利用者負担が重く、低所得の方が十分にサービスを利用できない状況は、その最たるものと私は考えています。社会福祉サービスは生命や健康や人間の尊厳に直結しているがゆえに、必要としている人は経済力の有無に関係なく平等に利用できなければならないからです。

「認知症ケアの切り札」とされているグループホームにおいても、これまで公的な減免制度は一切なく、家賃、水道光熱費、食費等の利用料に介護サービスの1割負担を含めると月額13～15万円（全国平均）になっていますが、本年4月から介護保険制度にある地域支援事業の1つとして減免制度が設けられました。ただし実施するか否かは市町村任せの任意事業となっており、松山市は現在のところ実施の意思はないとのことです。（^{かまきり}蟻螂の斧であることはよく承知していますが）制度の非をあげつらうだけで行動しなければいつまでたっても事態は変わりませんので、先の理事会にて、本年8月より法人の独自事業として、低所得の方を対象にグループホームの居住費、食費等の利用料を通常料金の半額に減免することに決定しました。

なお当法人では、もう1つの実施事業である小規模多機能居宅介護においても、「社会福祉法人による生計困難者等に対する介護保険サービスに係る利用者負担軽減制度実施要綱」（厚労省）に基づき、利用料減免を行うことを松山市にも届け承認を得ています。こちらの方は公的制度を活用しての減免ですが、こうした制度についての広報活動を行政は積極的には行っておらず、介護支援専門員（ケアマネージャー）も大半が知らないのが現状と思われますので詳細は当法人にお問い合わせください。

当法人は決して財政力が豊かではありませんが、今後も社会福祉の原点と社会福祉法人の使命を大切に歩んでまいります。皆様のご理解、ご支援をお願いする次第です。



第一回 食のイベント開催



ともの家では6月から新たに「食のイベント」という日が毎月の行事に加わりました。毎月第3金曜日は調理室を休みにし、その日一日は、各事業所が責任をもって料理の準備を行います。利用者と協力し料理を作りあげる事業所、利用者が食べやすいよう創意工夫を凝らす事業所と取り組み方は様々ですが利用者さんにとって、よい思い出になったことを願っています。高市美紗

溝辺ともの家 「握り寿司作り」

「食のイベント」について、溝辺ともの家では昼食のメインに「握り寿司」を選びました。

利用者の濱田さんと近所にあるスーパーマーケットへドライブがてら買い物に行きました。店内を回り、お目当ての魚を見つけ、元主婦からのアドバイスを頂きます。「こっちの方がいいかね?」とあって、寿司のネタに丁度いいサイズの切り身を見つけて下さいました。



マグロ、サーモン、エビを購入しました。ホームに帰るとお寿司の匂いが漂ってきます。



小さく握ったシャリに一枚一枚丁寧にネタを乗せて下さいました。お寿司が出来上がるにつれ「わぁ美味しそうやね!」という声が聞かれました。皆さん、お腹はペコペコ。目の前で出来あがっていくお寿司に目はくぎ付け。「箸は!箸はまだかね!」と待ちきれない様子の大井田さん。お寿司好きの方が多いこともあり、大盛況のイベントとなりました。

文：高市美紗

ともの家この道 「外で昼食を食べる」



6月15日、食のイベント第1弾「外で昼食を食べる」を梅雨空の中決行。メニューはオニギリ3種類(のりたま、ゆかり、わかめ)、具だくさん豚汁、だし巻き玉子の3品。いつもの昼食メニューに比べると品数は少ないが「オニギリは皆さんよく食べるかも?」と予想し、通常3合程の炊飯を6合にして小さいオニギリを作り、アンジュール前のテントの下へ。各自の皿に取り分けると次々と手が伸びる。普段食が細くゆっくりと召し上がる方も目の前の出し巻き玉子の鮮やかな黄色に目が釘付け。(次ページへつづく)



(前ページつづき)

おかゆを食べては「いらん！！」が口癖の男性がポツリと「これ…オニギリ?」。いつもの「いらん！！」は一言も発せず黙々と食された。多過ぎたか?と心配した6合のオニギリもいつの間にか完食。(スタッフもかなり食べましたが…。)

今回はどんなイベントを行うか?特別なメニューでなくとも少しのアイデア、工夫、雰囲気と変えることで生活にも良い刺激が生まれることを実感できた1日になりました。

文：花碓秀美



小規模多機能ホーム 「皆さん大好き♪お好み焼き」

食のイベント第一回目。事前に利用者さんにも意見をうかがって決定しました。材料を切る担当、卵割り担当、粉を混ぜる担当。出来ることを、出来る範囲でやっていただきます。料理は、五感をつかいとても脳に刺激のある作業だといわれます。一人では難しくても、皆ですれば楽しく、美味しくできるはず。

ある男性利用者さんお二人は、「ホットプレート権」を巡って衝突する場面もありましたが、真剣に取り組んでいる証拠です。焼き上がりは、ノンアルコールビールとともに、皆で仲良く食べました。

カンパニー!!

文：山岡理紗



アンジュールともの家 「お好み焼き作り」



今回の食のイベントでは利用者の皆さんにはお好み焼きを食べていただきました。



普段あまり食が進まない方でも、なぜか不思議と食べられるんです。前日からキャベツの準備をしておいて、利用者の方に混ぜていただいたり、焼きあがったお好み焼きにソースを塗っていただいたり様々なお手伝いをさせていただきました。そのおかげもあってか、皆さんとても笑顔でお好み焼きに舌鼓を打っていました。

文：中川晃一



恒例小規模ピアノ演奏会について

月に一度、小規模（この道2階）でピアノ演奏会のボランティアをして下さっている越智先生に5月29日恒例のピアノ演奏会の後、取材させていただきました。

質問 どのような経緯でともの家で演奏会を開いていただけるようになったのですか。
芝田さん（小規模職員）の娘さんが昔習われていて、そのご縁で。

質問 実際にミニコンサートを開いてみてどうでしたか。
自分の好きなことで喜んでいただけて嬉しく、やりがいがあります。



質問 ピアノコンサートで演奏している曲はどのようにして決めていますか。

最初は自分で考えていました。芝田さんから「みんなで歌える曲を」とのこと
でいろいろな曲を、歌いやすい高さに書き換えて演奏しています。最後のクラシ
ックの曲は、自分の練習のために演奏させていただいています。あまり人前で演
奏する機会がないので、とてもよい経験をさせていただいています。

最後に、ご家族や職員などにメッセージがありましたら、よろしくお願いします。

これからも続けさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

インタビュアー：中川晃一（広報委員）



←写真は、演奏会の様子です。

先生の演奏するピアノを囲み、大きい文字に書き写した歌詞を指し棒で指しながら歌います。

思い出の歌や曲で、笑顔で歌われる方やそっと涙される方、声をあげて泣かれる方など楽しみ方は人それぞれです。音楽は、お年寄りの身体と心に刻まれた記憶に触れ、よき思い出を甦らせてくれる力がある

ことを、今までの演奏会で度々実感することができました。

文：山岡理紗



賑やかな一日



7月1日(日)に愛媛大学教育学部 総合人間形成過程 人間社会デザインコース福祉デザインフォーラム(担当: 魁生由美子さん)の学生12名。そしてNPO 法人ボランティア神輿の会の方々も一緒にともの家に来てくださいました。



「ごはんを食べに来ました～」と明るい声で訪ねて下さった学生さん?先生?お年寄りも、ご自分のお孫さんと同じくらいの学生さんたちに興味津々です。初々しい自己紹介を身を乗り出して聞いておられる方もいます。学びのかたちはたくさんありますが、やはり肌で感じるこ

とが肝心。生の反応を自分の五感を通じて獲得し、社会に出て活かしてほしいなと思います。…なんて一丁前のことを書いてしまいましたが、20代前半にこのような経験ができることが羨ましいのです。午後からは、お神輿見物。というより乗っておられます!! 祭り会場は危険なこともあり、お年寄りが行くことは難しいため、このような機会は貴重。感極まり涙された方もいらっしゃいます。お越しくございました皆様ありがとうございました。またのお越しを心からお待ちしております。



文章: 山岡理紗(広報委員)

足こぎ車イス購入!!



思わず乗ってみたいくなる自転車のような車椅子。

写真撮影に快く応じてくださったモデルは、たまたま居合わせた楠本さんです。乗ってみた感想は「おお意外と速いなあ。」

【もう一度自分の足で、行きたい場所へ、逢いたい人へ。】がキャッチコピーのこの車椅子。歩くことが困難になると、自分の行きたい場所に行きたい時に行くということも難しくなります。

ともの家で、この車椅子を自在に操り行きたいところに行くという目的を、お一人で果たすことができる方はごく僅かですが職員がお手伝いすることで『自分で動かしている感覚』を感じる事が可能な方はたくさんおられます。また、リハビリ効果を得られる可能性がある…など職員の腕の見せ所といったところでしょうか。実際乗ってみた私個人の感想は、車体のビビットなイエローといい、理屈抜きに「乗る楽しさ」が味わえるものでした。

取材: 山岡理紗(広報委員)

合同外出（アクティビティ委員会主催）



アクティビティ委員会委員長古川さんに今回の外出の振り返りをお聞きしました。

質問者：山岡理紗（広報委員）

質問 今年度はじめての合同遠足ですが、100点満点中何点ですか。

60点

質問 簡単に遠足の流れを教えてください。

貸し切りバスで、桜三里～西条～タオル美術館へ行き散策を一時間半ほどして、糸山公園にてお弁当を食べました。



↑今治タオル美術館にて

質問 次に活かしたい反省点がありますか。

- ・ 今後は雨天決行はしないように、予備日を含めた計画もしっかりたてておく。
- ・ 貸し切りバスは良かったのですが、車椅子の方でも安楽に乗り降りできるようなエアサス付きのバスなども探したいです。

質問 次回、計画されている行事は何ですか。

8月上旬に久万に行き、川に足をつけたり、眺めたりという計画です。

(※現在は計画変更となり、8月7日にアサヒビール工場へ行くことになりました。)

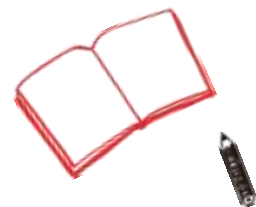
職員研修（研修委員会主催）

4月 理事長講義「高齢者福祉施設利用者の権利擁護」
先進的な取り組み紹介（VTR研修）

5月 平成23年度 介護事故の振り返り

6月 井谷 Dr.による講義「高齢者にみられる主要症状」
高血圧、浮腫、熱中症、脱水、便秘など

7月 松岡 Ns.による講義「意識障害、皮膚の異常、摂食・嚥下障害について」



職員は研修終了後レポート提出を行い、日々の業務につなげています。



管理者からのメッセージ ～part 5～

今回は、小規模多機能ホームともの家の管理者です。
今年から管理者となった渡邊研太郎さん「筋金入りの福祉人（理事長談）」とのこと。
インタビュー形式で取材いたしました内容をお届けいたします。

質問 自分自身の介護哲学は何ですか。

- ・自分がされて嫌なことはしてはいけない。自分に置き換えて考え相手に対しての思いやりや優しさをもって介護する。
- ・障がい者や病気、認知症の人であっても、目上の人、人生の大先輩であるため上下関係を忘れず人として接する。

質問 若手職員に一言。

「利用者さんの為にしていきましょう!!」知識や技術を身につけ、利用者さんがどのようにしたら安心して生活できるようになるのか考える。口で言うのは簡単なこと行動に移そう。自分の考えをしっかりともち、やりがいを見つけることが大切。

質問 休日は何をして過ごしますか。

- ・結婚しているため、家族と過ごしています。
(お子さんと遊んだり、奥様と2人の時間を過ごしたりしているとのことです。)

質問 夢・目標は何ですか。

- ・自分が老い、福祉サービスを利用する時、ここともの家がよいなと思える施設・事業所にしていきたい。
- ・個人的な目標は、スタッフが仕事しやすい雰囲気づくり。自分はまだまだだから日々成長していかなければならない。

最後に…

仕事をすることはしんどいこと。それは当たり前。することは山ほどある。楽をしようと思えばできる。全ては自分の気持ち次第。自己満足ではダメで、謙虚な姿勢で仕事に取り組むことが大事。

インタビューー：篠原史彰（広報委員）

次号からは、各事業所の主任にメッセージをいただきたいと思っています。



ともの家駐車場整備～ありがとうございます～



車に乗る男性職員が購入（一人3袋）し持ち寄った砂利を、雨が降るとぬかるむ駐車場に敷いてくれています。この駐車場で何度となく転びそうになったり、水たまりにはまってしまっていたのは私だけではないはずです。5月末の作業、梅雨入り前に助かります。夜勤明けでお疲れのところ、写真撮影のために笑顔までくださりありがとうございました。

*後日、あまりの大変さにトラックで砂利を搬入することとなったそうです。

取材：山岡理紗（広報委員）

お知らせ

●ともの家ホームページの「取り組み紹介」を「日々是好日なり」に名称変更いたしました。

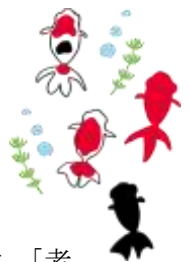
ありがちな行事の感想などではなく、ささやかで大切な日々の営みをレポートできればよいと思っております。その名の通り、お年寄りにとって毎日が平和で良い日であるように取り組んでいます職員の言葉をぜひ、ご覧ください。



ありがとう欄

ハープ演奏、バイオリン演奏、ピアノ演奏、お花クラブのボランティアをして下さった皆さまありがとうございました。

新聞紙、ウエス用の布など寄付して下さった皆さま、ありがとうございました。



編集後記

豪雨による災害、富士山が噴火!?!…と人間の力ではどうにも抗えない自然。「老い」という現象もその一つ。諦めではなく「受け入れる」ことで何かが変わるような気がします。それもこれもすべては日々接するお年寄りから学ばせていただいています。

私自身はジタバタしてつまずいたり、転んだり修行真っ只中。傷の上に傷をつくって奮闘し、「受け入れる」などほど遠いのが現状ですが、諦めません。山岡（小）